

令和４年度 美山小学校学力向上プラン

１ 学力向上に係る目標

- (１) 本校の児童の実態や指導上の課題を踏まえた授業改善を推進する。
- (２) 国語・算数を中心とした知識及び技能を確実に定着させ、活用力としての思考力・判断力・表現力の素地を育成する。
- (３) 学習内容の確実な定着につながる学習習慣・生活習慣を確立させる。

２ 重点事項

- ① 主体的・対話的で深い学びの実現をめざす授業改善を通した非認知能力の育成
- ② 家庭学習と連携した基礎学力の定着
- ③ 個の実態に応じたきめ細かな指導

３ 重点事項への具体的な取組

① 主体的・対話的で深い学びの実現をめざす授業改善を通した非認知能力の育成

各学習で、問題に対し児童が考えたことを自分の言葉で表現し、友達の意見を聞いて、課題解決に向けて意見を練り合い、さらに自分の考えを深めることができる授業をめざす。

(１) 基本的な授業の流れ

４５分間の単位時間を意識して、めあて・課題の確認→自分の考えを持つ→考えの交流→まとめ→ふりかえりという流れを基本とする。

また、「学習した月日」「授業回数」「めあて」「めあてに即した振り返り」を板書とノートに明記させる。

(２) 意図的に話し合い活動を取り入れた学習活動

授業のプロセスに「思考・判断し、表現する」活動を位置づける。「ひとりで考え解決する」、「ペアやグループで解決する」、「全員で解決する」過程で、様々な思考ツールを活用し、自分の意見を持ち、考えを書いたり、わかりやすく発表したりする力をつける。

それらの活動は、１時間の授業だけでなく単元全体として「考え、解決する」活動を重点的に指導する時間、「表現する」活動に力を入れて指導する時間など、単元全体の見通しを持って指導を行う。

(３) ICT 機器の活用

ペア学習やグループ学習の様々な学習形態において、ICT 機器を有効的に利用し、児童の思考や表現の手助けとなるようにする。

② 家庭学習と連携した基礎学力の定着

自分の考えを持ち、考えを表現したり友達と意見を練り合ったりするには、基礎

的基本的な知識の定着が重要となる。そのために、あらゆる学習や生活の中で基礎学力の定着を図る。

(1) 家庭学習の充実

基本的な家庭学習の内容は「音読・漢字（ひらがな・カタカナ）・算数」とし、本時や単元で学習したことを復習するなど家庭学習と授業をつなげたり、既習事項の復習を入れたりして、学習の習熟や定着を図る。

自主学習を行い、自分で学習内容を考え、週1回程度提出するようにして取り組む。ページ数や内容は学年の実態に応じて設定する。

学習内容や時間等を示した「家庭学習の手引き」を作成・配布し、学校と家庭とが連携しながら家庭学習の習慣化を図る。

(2) 朝学習の充実

毎朝10分間の朝学習を実施する。学級の実態に合わせて内容を決定し、継続的に見通しをもって学習する。

- ・朝読書…全校一斉に読書活動（読み聞かせ）をする。（毎週月曜日）
- ・算数…計算等の反復練習をする。
- ・国語…言葉や漢字の学習をする。言葉の基礎的な文法を中心に学習する。

(3) 補充学習の時間の設定（美山わくわくスタディ）

年間を通して、全校体制で補充学習を実施する。補充学習の内容を充実させ、算数を中心に基礎的・基本的な知識や技能の習熟を図る取組を行う。

③ 個の実態に応じたきめ細かな指導

児童一人一人の学ぶ意欲を高め学力を向上させるために、個々の学習状況を把握し、課題を明らかにし、発達段階に応じたきめ細かな指導を行い、指導内容を確実に定着させる。

(1) ユニバーサルデザイン授業の推進

「ユニバーサルデザイン授業の視点」に立った授業を考え、実践することにより、どの子にもわかる、個に応じたきめ細かな指導を行う。

(2) 学習評価、診断テストの活用

全国学力・学習状況調査、京都府学力診断テスト、南丹市学力診断テスト及び総合学力診断テストの結果分析を行い、児童の実態を把握し、学習指導に生かし課題の克服に努める。

(3) 学力補充の時間設定

放課後や長期休業期間中に学力補充の時間を設定し、個々の必要に応じて必要な学力支援策を講じる。（美山わくわくスタディ、サマージャンプ）